

柏原市立老人センター「やすらぎの園」 多くの費用がかかる建て替え実現か？

柏原市立老人福祉センター「やすらぎの園」の建て替え案が浮上している。老朽化に伴い、3億円かかるというが、補強工事ならその約半分で済むといわれる。また移転先として「サンヒル柏原」の駐車場が候補にあげられているが、ここに移転していいのかという問題も残ったままだ。

年間のべ4万8000人が利用するというのが決まった人ばかりで、行きにくいという声も。

市では今、柏原市立老人福祉センター「やすらぎの園」の建て替えを検討しているという。老朽化によって利用者の快適性や耐震性の問題など、安全性の立場から緊急課題と

岡本市長のための「柏原新聞」 末期的な自己弁護に市民も、あきれ顔。

市民の
声

「かしわ見張り番」を読んでくださっている市民の方から、お手紙をいただいた。「新聞という名前のごろつきまがいのチラシ」「柏原新聞」について、もっともなご意見である。

■自分自身の醜態をさらけだして、かえって「哀れ」ですよ。

「柏原新聞は、マスコミ嫌い(マスコミ恐怖症)でテレビ等の取材を一切拒否続けている岡本市長が、誰の目から見てもわかる猿芝居、とわかる内容で、しかも名前を明らかにできないような記者に対し、必死に自己弁護をしていますね。それが岡本市長自身の人間性をさらけ出す結果になって、いよいよ最後の悪あがきだという感じが伝わってきます」。「恐らく岡本市長が自分自身の痛いところを突かれ、つまり本当のことを濱浦さんの「見張り番」で暴かれ続けていることに抵抗し、さらに、他の議員、職員達に対する脅し、圧力を意味を含めて、あのチラシ新聞を発行したということが本当のところでしょう」

「こういう悪あがきが、自らの信用を落としていく感じが、もう『哀れ』としませんか。まるで、裸の王様ということ、ほんとにわかってないんですかね」。

■柏原新聞さん、岡本市長の脚、引っ張ってまっすよ。

「そもそも、この柏原新聞というチラシ発行の会社、どういう理念で記事をお書きになっているんでしょうか。しかしながら、掲載の内容は、かえって岡本市長の脚を引っ張ってまっすよ。ま、これからはもう、岡本市長の脚を引っ張り続け、ある意味、岡本市政の打倒への協力を続けてください。」

「濱浦さん、どうぞ自信を持って、今の改革への取り組みを続けてください。このチラシ新聞が、岡本市長と蜜月関係にあることは、誰から見ても周知の事実です。このチラシ新聞を利用して岡本市長の抵抗は貴方の市政改革に対する取り組みの証拠です。これからま、グロツキまがいのチラシ新聞にたたかれるように、頑張ってください」

市長さん、いい加減やめなはれ～

市民にとって無益な会期を延ばすことはやめましょう。

柏原市議会には年に4回開かれる。会期は1か月ほどで、秋は9月10日が始まって10月31日まで終わる予定だったが、会議で決めなければいけない案件「監査」について、市長は「多忙」などと言い逃れて、議会に提案しようとしなかったのだ。この案件が出されたのは、会期終了の間際だ。ムダな引き延ばしは、議員に負担を強いるだけ、やめる気のある議員に対するいやがらせか？

なっている、と市では説明している。「やすらぎの園」は近鉄大阪線国分駅西、旭ヶ丘にある。柏原市在住の高齢者に対し、健康の相談に応じるとともに健康

建て替えの費用は3億円ほどかかる。しかし、市では大規模な補修より、「建て替え」を考えているという。補修なら半分の費用ですむのだが、それ

補強なら半額程度の費用で可能 「建て替え」が本当に必要なのだろうか

の増進をはかり、レクリエーションを通じて明るい生活を営んでもらうことを目的としている。施設は、大、中広間、和洋室、浴場、機能回復訓練室、ラウンジ、囲碁将棋コーナー、食堂、別館などいろいろな目的に使用できる。主に入浴が目当てで来ている人が多いそう。利用

料は無料、巡回バスを利用すればアクセスはさほど悪くない。1日の利用者は166人、年間では4万8000人が来ているというが、利用するのは決まった人ばかりで、初めての人は仲間に入りにくいという市民声もあがっている。



やすらぎの園ホームページより

には、事前からの公表や説明が必要不可欠である。9月本会議において、行政側から特別委員会を設置し、多くの住民から忌憚のない意見を聴き進めると聞いている。今、候補に挙がっているのが「サンヒル柏原」の駐車場である。何かと話題の多い「サンヒル柏原」だが、市外の人も利用する

宿泊施設であり、そこに、全く利用目的を異にする「老人福祉センター」をもつてくるのはどうだろうか。非日常を味わいたいと思つて訪れる「サンヒル柏原」そこに、老後の高齢者施設を建てるのは、無節操な計画にはならないだろうか？

建て替えではなく「補強」ではダメなのだろうか。市内の小中学校のトイレは老朽化がひどい。高齢者の福祉と共に、柏原の未来を担う子どもたちにも配慮すべきではないか。いずれにせよ、慎重な協議が必要である。

はまうら佳子の元気が出るコラム

議会は市長の足かせに！

先日、私、青森に行ってきました。「第6回全国市議会議長会研究フォーラム」に参加するためです。市議会の議員たちが、真の地方自治の担い手として市民のみなさんの期待に応えるには、今以上に自己啓発、自己研鑽に努めなければならないという趣旨に賛同してのことです。

そこで、学んだのが「二元代表制」と地方自治改革です。市長と議員はそれぞれ、市民のみなさんから直接選ばれています。権限は違いますが、「市民が選ぶ」という点については対等なものです。それが「二元代表制」です。そして議員は、あくまでも野党的でないといけない、いつも「これは正しい

のか」と、市長がしたことをチェックするのが、議員の仕事だと学びました。けして市長の信徒になってはいけない、ホントにそうだと思います。

ヨーロッパでは「議員は市長の足かせにならないといけない」というほど。だから、市民のみなさんも、選挙のときは本当にみなさんのために仕事をする議員を選んでください。もちろん、市長もそうです。そして選んだあとでもダメな市長とわかれれば、市民のみなさんの手でリコール(有権者が公職にある者の解職を要求する)もできるんですよ。明日の柏原市のために私は精一杯頑張っています。みなさんも力を貸してください。



パトロール

近で雑草が生い茂っている、なるとかならないかというところ。確かに雑草がかなり道幅からみ出ており、全く手入れがされていない状況であった。調べるとこの道路は府の管轄で、電話をすればとすぐに対応してくれる。すつかり草が刈られて、今は車の通行にも支障がない。紙面を持って報告させていただきます(連絡者が分かりません)。

ある市民の方があった。電話1700号線の安堂駅付の